

生分解性マルチ(コーンマルチII)の効果確認試験

JAふらの

岡田 憲雄



展張時:全景(5月24日)



展張後:全景(6月21日)



展張後:慣行区(6月21日)



展張後:試験区(6月21日)



鋤き込み後:慣行区(9月16日)



鋤き込み後:試験区(9月16日)

試験目的

生分解性マルチ「コーンマルチII」の実用化試験

試験作物及び品種

スイートコーン(ゆめのコーン)

試験資材及び数量(規格)

生分解性マルチ コーンマルチII(0.015mm×110cm×400m)
透明 有孔:11223・45φ・畝間60cm・チドリ

慣行資材

生分解性マルチ キ工丸(0.018mm×110cm×400m)
有孔:11223・45φ・畝間60cm・チドリ

栽培方法

播種日	収穫日	【栽植密度】 畝幅:60cm 株間:23cm
慣行区:5月16日 試験区:5月16日	慣行区:8月20日 試験区:8月20日	

資材使用期間

慣行区:5月16日~8月30日
試験区:5月16日~8月30日

試験区面積

1,240㎡

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

展張、鋤き込みとも、慣行品、試験品とも問題なかった。

展張時、慣行品の方が軟らかく、試験品は固いというより粘りがあって強い感じがあり、安心できた。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

今年は低温のため発芽が良くなかったが、慣行品と試験品の差はなかった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】:展張作業時、強度があって安心感がある。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

慣行品、試験品とも分解速度に問題ない。

チョッパーで鋤き込んだが、マルチの残渣は例年通りのため問題ないと思う。来年分解して少なくなっていることを期待する。

(5)促成・抑制効果について

慣行品、試験品とも差はなく問題ない。

(6)保温効果について

慣行品、試験品とも差はなく問題ない。

保湿について、試験品の方が厚さが薄いため不安であったが問題なかった。

(7)雑草・病害虫の発生について

慣行品、試験品とも差はなく問題ない。

モニター感想

展張時では、試験品の方が薄いため破れる不安があったが、強度(伸び)があり問題なかった。

栽培中に破れる等の強度の不安もなく、慣行と同等と感じられた。

生分解性マルチは省力になる良い資材のため普及は進むと思う。一層安価になるよう期待する。

JA担当者の感想(東山支所 生産資材課 菅原 氏)

組合員の高齢化は今後も続き、ますます省力化が重要になってくるため、このような資材のニーズは高まってくると思うが高価なため普及が進んでいない。薄肉化でより安価になることを期待するが、一方で新しい安価な原料を使用する等、低コスト化への速度を上げてほしい。

今後の使用について

継続して使用したい。

1 高温対策

2 青虫忌避効果

3 調光フィルム

4 クリントート

5 機能性マルチ

6 育苗資材

7 不織布

8 その他